

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は2022年度(公財)日本陸上競技連盟競技規則、(公社)日本マスターズ陸上競技連合競技規則、第21回東海マスターズ陸上競技選手権大会要項及び本競技注意事項に基づき実施する。

2 競技は、記載された競技順序と時間により進行する。

3 選手の招集について

- (1) 招集場は本競技場の100mスタート付近の正面スタンド下の器具庫に設ける。招集時間は、トラックは30分前に開始し20分前に終了する。フィールドは40分前に開始し30分前に終了する。各自で競技場所(スタート場所)に行くこと。
- (2) 招集時刻に遅れた競技者は、棄権とみなし出場を認めない。
- (3) 他種目に出場する等、特別な事情により招集時刻に招集の手続きができない競技者は、招集開始時刻以前の招集を認めるので、招集所にその旨申し出ること。
- (4) アスリートビブスのない競技者は出場できない。アスリートビブスは、胸、背各部に確実に取り付けること。但し、跳躍競技に出場する競技者は、胸部もしくは背部のいずれかでもよい。但し、走幅跳・三段跳・立五段跳は胸部には必ず付ける。

4 競技について

スパイクは、トラック・フィールドともに9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。

(1) トラック競技

- ①すべてタイムレースで行う。同記録の場合は生年月日の早い者を上位とする。
- ②複数組ある種目の競技順はプログラム記載順とする。
- ③全て写真判定装置を使用する。ただし、不測の事故等で写真判定ができない場合は、手動計時を行うことがある。
- ④800m以上の競技はオープンレーンスタートとする。
- ⑤男女とも、3,000m20分、5,000m30分、3,000mW30分の制限時間を設け、これを超過した場合には次の周回に入れない。
- ⑥400m以下のレースでスターティングブロックを使用できない競技者は競技役員に申し出ることにより、これを使用しないことを認める。
- ⑦短距離競走では、安全のために競技者はフィニッシュラインを通過後も割り当てられたレーン(曲走路)を走ること。
- ⑧リレーについて、年齢の高い競技者が低いクラスの走者となることができる。但し少なくとも2名は当該クラスに属すること。リレー代表者は、競技者係からリレーオーダー用紙を受け取り、必要事項を記入の上、競技開始時刻の1時間前までに競技者係へ提出すること。

(2) フィールド競技

- ①試技順は全種目ともプログラム記載順とする。競技時間中に他の競技に出場する競技者は、申し出ること。この場合、当該競技を優先し試技順を適宜変更するが、他の競技出場中に失った試技を要求することはできない。
- ②走高跳のバーの上げ方は別表3の通り。但し、競技者の能力等の状況により、審判長の判断で練習時と競技最初の高さを変更する場合がある。
- ③棒高跳のバーの上げ方は別表4の通り。但し、競技者の能力等の状況により、審判長の判断で練習時と競技最初の高さを変更する場合がある。
- ④走幅跳の踏切の位置は2mとする。三段跳・立五段跳の踏切の位置は、5m, 7m, 9m, 11m, 13mとする。競技者は、自己の踏切位置を事前に競技役員に申し出ること。
- ⑤走高跳・棒高跳以外のフィールド競技の試技数は各クラスのトップ8を決めるまでは3回とし、トップ8による4回目以降の試技数は1回とする。競技進行上、4回目の試技順もプログラム記載の番号順とする。

5 その他

- (1) 競技中に起きた競技者の行為又は順位に関する抗議は、競技の記録発表15分以内に総務員に申し出ること。
- (2) 上訴する場合は競技者又は代理人、又はチームの責任ある代表者が上訴申立書を提出し、現金1万円を預託する。この預託金は上訴が受け入れられなかったときは返却されない。
- (3) 岐阜マスターズ陸上競技選手権大会の表彰は行わない。
- (4) 環境美化に十分気を使い、清掃するとともに、各自の出したごみは持ち帰ること。
- (5) 貴重品の管理は各自で責任を持って行うこと。遺失物について、大会開催中は本部で、大会終了後は岐阜マスターズ陸上競技連盟事務局で、保管する。
- (6) 競技者以外の付き添い者などは競技場内に入ることはできない。
- (7) 競技者は、ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話もしくはそれらに類似した機器を競技区域内で所持または使用することができない。
- (8) 競技中のケガ等は応急処置をするがその後は責任を負わない。
- (9) 競技結果はWebに掲載し、紙による掲示は行わない。
- (10) 競技用具等について
 - ①ハードル競走の種目別基準は別表1の通りとする。
 - ②投てき競技用具の使用基準(重量)は別表2の通りとする。
 - ③競技場以外から持ち込む投てき用具は、公式計測を受け合格したものを競技場が借り上げる。検定は現地で行う。
- (11) 要項 21. 留意事項④に記載の通り新型コロナウイルス感染予防に努める。
- (12) 控え場所では必ずマスクを着用し、三密を避けるようにすること。

別表1 ハードルの使用基準

性別	クラス	種目	高さ (cm)	台数	第1H まで(m)	間隔 (m)	フィニッシュ まで(m)
男子	M-24~M30	110mH	106.7	10	13.72	9.14	14.02
	M35~M45	110mH	99.1	10	13.72	9.14	14.02
	M50・M55	100mH	91.4	10	13.00	8.50	10.50
	M60・M65	100mH	84.0	10	12.00	8.00	16.00
	M70・M75	80mH	76.2	8	12.00	7.00	19.00
	M80~	80mH	68.6※	8	12.00	7.00	19.00
女子	W-24~W35	100mH	84.0	10	13.00	8.50	10.50
	W40・W45	80mH	76.2	8	12.00	8.00	12.00
	W50・W55	80mH	76.2	8	12.00	7.00	19.00
	W60~W75	80mH	68.6※	8	12.00	7.00	19.00

※68.6cmは小学生用70.0cmのハードルで代用可

別表2 投てき競技用具の最小重量基準

性別	クラス	砲丸 ハンマー (kg)	円盤 (kg)	やり (g)
男子	M-24~M45	7.26	2.0	800
	M50・M55	6.0	1.5	700
	M60・M65	5.0	1.0	600
	M70・M75	4.0	1.0	500
	M80~	3.0	1.0	400
女子	W-24~W45	4.0	1.0	600
	W50~W70	3.0	1.0	500
	W75~	2.0	0.75	400

別表3 走高跳のバーの上げ方基準

審判長の判断で練習時と競技最初の高さを変更する場合がある

性別	クラス	練習の高さ (m)	開始の高さ (m)	上げ幅 (m)
男子	M-24～M35	1.35	1.40	0.05刻み
	M40・M45	1.25	1.30	
	M50	1.20	1.25	
	M55	1.10	1.15	
	M60・M65	1.00	1.05	
	M70～	0.95	1.00	
女子	W-24～W30	1.20	1.25	0.05刻み
	W35	1.10	1.15	
	W40	0.95	1.00	
	W45・W50	0.85	0.90	
	W55・W60	0.80	0.85	
	W65～	0.75	0.80	

別表4 棒高跳のバーの上げ方基準

審判長の判断で練習時と競技最初の高さを変更する場合がある

性別	クラス	練習の高さ (m)	開始の高さ (m)	上げ幅 (m)
男子	M-24～M35	2.60	2.70	0.10刻み
	M40	2.40	2.50	
	M45	2.30	2.40	
	M50	2.10	2.20	
	M55	1.90	2.00	
	M60	1.70	1.80	
	M65	1.60	1.70	
	M70	1.50	1.60	
	M75～	1.40	1.50	0.05刻み
女子	W-24～W35	1.60	1.70	0.10刻み
	W40	1.50	1.60	
	W45	1.40	1.50	
	W50・W55	1.30	1.40	
	W60～	1.20	1.30	0.05刻み